Go　Beyond～今の自分を超えてゆけ！～

校長漫筆記

令和８年４月 24 日
姫路市立高校
校長通信　第３号
文責　平山智樹

自転車の「青切符」と、私たちのマナー

第１期生が、兵庫県警の協力を得て自転車教室を行いました。初々しくも真剣な眼差しに、私も身が引き締まる思いでした。

さて、４月から自転車にも「青切符」が導入されました。「反則金があるから守る」のも一つですが、私が今回伝えたいのは、そのルールの先にある「想像力」のことです。

例えば、スマホの「ながら運転」。画面に夢中な１秒間、あなたの自転車は視界を失ったまま走っています。もしその先に、小さなお子さんやお年寄りがいたら・・・。ルールは私たちを縛るものではなく、大切な人を傷つけないための「お守り」です。

あるいは「下り坂のスピード」。風を切る爽快感の裏で、自転車は原付バイク並みの速度に達します。ブレーキを握ってから止まるまでの数メートル、自転車は「巨大な鉄の塊」となって突き進みます。その衝撃が相手に何をもたらすか・・・。ハンドルを握る手に、その重みを感じる想像力を持ってください。

私は義弟を交通事故で亡くしました。23 歳でした。本人の無念、家族や友人の深い悲しみは言葉になりません。だからこそ「自分は大丈夫」という油断を捨て、自身の行動を振り返ってください。

「いってきます」と出かけ、「ただいま」と笑顔で帰る。 そんな当たり前の日常は、一人ひとりの小さな「一時停止」から作られます。ルールを守ることは、自分と誰かの人生を守ること。

残念ながら、４月以降、地域の方々から生徒の運転マナーについて厳しいお叱りをいただくこともございました。これは、一歩間違えれば大切な生徒が加害者にも被害者にもなりかねないという、地域からの「警告」であると真摯に受け止めております。学校でも粘り強く指導を続けてまいりますが、ぜひご家庭でも、今一度ハンドルの先にある命について言葉を交わしていただければ幸いです。

青い空の下、多くの生徒がマナーを守って颯爽と走る姿を、私は誇りに思うとともに、どうか事故には遭わないでほしいと心から願っています。